

施策評価シート(平成23年度の振り返り、総括)

作成日 平成 24 年 5 月 30 日

施策	11	交通安全対策の推進	主管課	名称	総務課	関係課	地域整備課(管理、建設)
				課長	篠田 朗		

施策の目的	対象 (誰、何を対象としているのか)	対象指標	単位	20年度 実績	21年度 実績	22年度 実績	23年度 実績	24年度 見込み	把握方法
	①交通安全にあわない、起こさない。	①町民	A 人口(外国人も含む)	人	22,924	22,618	22,194	21,727	
B									
C									
D									
意図 (対象がどのような状態になるのか)		成果指標 (意図の達成度を表す指標)	単位	20年度 実績	21年度 実績	22年度 実績	23年度 実績	24年度 目標	設定の考え方と把握方法
①交通安全にあわない、起こさない。		A 交通人身事事故発生件数(町内・町民が第1当事者)	件	124 120	90 114	100 112	94 107		A)直接的な設問であり、件数が減れば目的が達成されているといえるため成果指標とした。 交通人身事事故統計年報による ※1月～12月の数値
		B 交通事故による人的被害者数(死者・傷者)	人	4 182	1 124	0 136	1 133		B)直接的な設問であり、件数が減れば目的が達成されているといえるため成果指標とした。 交通人身事事故統計年報による ※1月～12月の数値
	C 過去1年間に、道路で危ない(ヒヤッ)と感じた町民の割合	%	-	-	-	56.4		C)数値が高まると、交通事故件数の増加につながると考えられるため成果指標とした。 町民アンケートにより把握 ※過去1年間に、道路で危ない(ヒヤッ)と感じたことがありますか。→「はい」と回答した人の割合	
	D								
	E								
	F								

住民と行政との役割分担	1. 住民の役割 (住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)	2. 行政の役割 (町がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)
	①交通安全を意識し、交通事故をおこさないようにする。 ②交通ルールを遵守する。(歩行者、運転者ともに)	1)町がやるべきこと ①関係機関と連携し、交通安全施設(カーブミラー、ガードレール等)の整備を推進する。 ②交通事故の防止を図るため、交通安全運動(四季で実施)や交通安全教育(幼保・小中)を推進する。 ③交通安全広報活動等を実施する。 ④交通指導員を委嘱し、交通事故防止に取り組む

1. 施策の成果水準とその背景・要因	1) 現状の成果水準と時系列比較（現状の水準は？以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は？）	2) 他団体との比較（近隣市町村、県・国の平均と比べて成果水準は高いのか低いのか、その背景・要因は？）	3) 住民の期待水準との比較（住民の期待よりも高い水準なのか 同程度なのか、低いのか、その他の特徴は？）
	<p>①町内の交通人身事故発生件数は、平成20年124件、平成21年90件、平成22年100件、平成23年94件と、100件前後で推移している。94件のうち、町民が第1当事者となった事故は44件で平成22年度の51件から7件減少している。来町者による事故が半数以上にのぼっている。また、町民が第1当事者となった交通人身事故発生件数は、平成20年120件、平成21年114件、平成22年112件、平成23年107件と、年々減少している。シーズンごとの交通安全運動、幼保小中での交通安全教室等の啓発活動を展開した成果と考える。</p> <p>②町内の交通事故死傷者数は平成20年186人、平成21年124人、平成22年136人、平成23年134人となっており、増減を繰り返している。負傷者は3人減少したが、前年ゼロだった死者が1人発生してしまった。</p> <p>③過去1年間に、道路で危ない(ヒヤッ)と感じた町民の割合は56.4%となっているが、年齢別にみると、高齢であるほど低い傾向にある。</p>	<p>①平成23年中の利根沼田地区交通事故発生件数は、沼田市331件、片品村20件、川場村9件、昭和村22件、みなかみ町94件となっている。町内で発生した事故のうち、住民以外が第1当事者となっている割合は、県全体で44.3%、沼田市46.2%、片品村65.0%、川場村77.8%、昭和村50.0%、みなかみ町53.2%となっている。特にみなかみ町では、スキー目的で雪道に不慣れな来訪者が冬期間に多く訪れるため事故発生件数は増加する。</p> <p>②平成23年中の人口10万人あたりの第1当事者数を県内市町村で比較すると、ワースト1位が榛東村1,113人、最良が南牧村302人となっている。近隣市町村では、ワースト順位で昭和村570人22位、沼田市568人23位、片品村563人24位、川場村391人32位、みなかみ町514人26位となっており、県内でも少ない。一方で、悪質事故(無免許、飲酒、速度違反)に限ってみると、みなかみ町は24人ワースト5位であり、その内容は無免許1件、飲酒2件、速度2件となっている。近隣市町村では沼田市18人9位、昭和村13人18位、片品村、川場村では悪質事故は発生していない。県全体の悪質事故は無免許48件、飲酒120件、速度204件である。</p>	<p>①交通事故をなくすという期待があるが、平成23年中は94件の事故が発生した。</p> <p>②従前からガードレールを設置するなど、危険箇所対策を進めているが、交通事情の変化により、危険箇所対策を求める声がある。</p> <p>③消雪・融雪施設の設置を期待されている。</p> <p>町民アンケートによると、この施策に対する満足度は、満足5.9%、やや満足31.4%、やや不満5.2%、不満2.4%となっている。</p>
	2. 施策の成果実績に対してのこれまでの主な取り組み(事務事業)の総括	3. 施策の課題認識と改革改善の方向	
	<p>①交通指導隊員には各交通安全運動・交通安全教室等に協力してもらっており、警察・交通安全協会・交通安全会女性部と連携して交通事故防止に寄与している。</p> <p>②交通安全対策施設整備事業として、交通安全対策特別交付金(国費)により、カーブミラー・ガードレール・区画線等の整備を行った。</p> <p>③子どもが交通事故にあわないように、交通安全教室を各幼保・小中学校で実施した。</p> <p>④交通安全だよりを各行政区へ配布し、地域における交通安全を啓発した。</p> <p>⑤別施策(学校教育)ではあるが、新治地区で「子ども安全安心・育成協議会」を組織し、見守り協力員の方が小中学生の登下校に付き添うようになった。見守り協力員には約60人ほどの地域住民の方が登録されている。</p>	<p>①交通安全や交通事故防止意識の向上に向けた啓発活動を実施しているが、現在も劇的に交通事故が減ることがないため、今後も啓発活動をより充実させる必要がある。</p> <p>②運転者や歩行者が安全に通行できるよう、随時、必要箇所(交通事故多発箇所、子どもの飛び出し、カーブ多し、死亡事故多し、信号注意、一時停止など)に道路標識等を設置する必要がある。</p> <p>③高齢者の増加に伴い、交通事故の発生件数の増加が懸念される。(運転・歩行両方とも)</p> <p>④消雪・融雪施設の設置により交通事故の防止を強化したいが、工事費及び維持管理に莫大なコストがかかる。</p> <p>⑤来訪者の交通事故対策に関する啓発を行う。(交通マナー、雪に対する備え)</p>	